



大分県立竹田高等学校
分東同窓会
第31号

発行所・会長 佐藤映之
編集者・委員 佐藤敏士
発行所・関東同窓会事務局
〒190-0002
東京都立川市幸町 4-47-29
電話 042-535-3322
FAX 042-535-3322
http://www.geocities.jp/
kantsuhaketa/
印刷・佐伯印刷所

竹田高校関東同窓会 創立二十周年記念挨拶

関東同窓会会長

佐藤 映之

(S28卒)



関東同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会の運営にあたりまして格別のご支援、ご協力を賜わり誠に存じます。

さて私ども関東同窓会はお創立で、今年創立二十周年を迎えます。顧みれば昭和六十二年、先輩各位が母校愛に燃え、設立に絶大な力をさされ今日の「礎」を築かれました。爾來、順調に発展し、現在、会員数、二千百十数名、(内維持会員四百名)、年一回の総会、懇談会出席者、超二百名(過去五年)、広報紙「臥牛」年二回定期発行、ホームページの開設、等々をみる

に到りました。これもひとえに会員の皆様の揺るぎないご支援と役員、各委員会委員、各学年幹事、及び当番幹事のご活躍に他なりません。設立当時、末席で参画しました私といえども真に感無量であります。東京には大分県の高校同窓会が約四十校(東京大分高友会加盟)も竹田高校は組織、財源、運営等、比較的高評価をいただいているところであります。今後は、少子・高齢化により運営面も厳しさを増すと思われませんが二十年の積み重ねをベースに更なる充足をすすめたいと思っております。来る七月八日に実施します総会、懇談会は節目の記念集会としての内容を企画致しております。牧竹田市長はじめ母校より校長先生、本校同窓会長、

竹田高校器楽部担当先生が遠路ご足労いただき又、地元から大分県東京事務所長はじめ、大分合同新聞東草支社、竹田会会長、東京大分高友会長、大分上野丘・別府鶴見ヶ丘・大分工業各高校関東同窓会長、並びに三重・三重農業・国東各高校の幹事長のご来席を賜わることになつております。

総会・懇親会案内 第二十回記念 関東同窓会

日時

平成十八年七月八日(日)
午前十一時受付開始

午後一時受付開始
午後五時閉宴

場所

アルカディア市ヶ谷

3F 富士の間

企画担当幹事

第十七期(S40年卒)

第二十七期(S50年卒)

総会

一、会務・会計報告

二、監査報告

三、新年度の方針・他懇親会

懇親会

二十回記念大会は現役本校生徒プラスバンド部(正式名称・器楽部)の皆さん、生演奏・お楽しみ下さい。学年別に椅子席を準備。昨年に続き「インフォメーションコーナー」を設置し先輩・後輩の交流を計ってください。又本年は記念大会ですので出席予定者は二百五十名規模の同窓会にしたいと思っております。

三十代、四十代、五十代の若い方々の奮つてのご参加と、一人が二人にお声をかけて頂き記念大会を成功させようではありませんか。

企画委員長 桑島輝茂

関東同窓会19年間の足跡

明弘学大理事長・本同窓会前会長



長吉 泉 (S26年卒)

「う」お願ひ申し上げ、お許しを請うたのであります。

我が関東同窓会は、1987年5月30日、東京・帝國ホテルに隣接する日本生命日比谷ビル7階の大ホールに関東地区在住の同窓生2,255名が参集して賑々しく発会し、以来、順風満帆の下に満19歳を数え、今年、第20回総会を迎えることができました。

折角の機会を与えて下さいましたので、当会の誕生の経緯と足跡を紹介したいと思います。

そもそも、本会設立の話は、田北和義先生から、同期の伊藤英介君に「東京26会が音頭をとって関東支部を結成して欲しい」と旨の打診があり、続いて、私が、1984年7月7日、竹田市の岩城屋ホテル様の新築オープン披露宴に参加した折、田北先生から同様のお話を頂いたことが始まりであります。

当時、私たちが(昭和26年卒)50歳を越えればかりの若輩者にあって余りにも重荷でありましたので、「大先輩にお話くださるよ

う」お願い申し上げ、お許しを請うたのであります。

かくして、日本パーカライジング株式会社の前田正治先輩(昭和10年卒)のもとにお話があり、本部より大津省吾会長と首藤忠良校長が、関東支部設立準備金として15万円を持参して上京され、1986年11月30日(日)午後、神田駿河台の主婦の友会館会議室に約40名が招集されました。

協議の結果、会長に高宮昇(昭和8年卒・当日欠席)を戴くこととし、その他は、高宮会長、渡辺正治氏及び後藤鉄石氏に同一任することとされたのであります。

解散後、私は、渡辺・後藤両先輩に近くの山の上ホテルでのお茶に誘われ、そこで、「幹事長として諸準備作業を担当すること」を命じられたのであります。

私の初仕事は、会則の原案作りでありました。会則の作成にあたって、①名称を「大分県立竹田高等学校関東同窓会」とする②幹事会を組織し、会務・運営に当たる③維持会員制を設け、維持会費をもって支弁する④竹田会の総会が秋に開催されるので、本会の総会を、毎

年春に開催することの4点を主要柱としました。(なお、第6回総会以降は、遷都を迎えた学年次とその10年後輩の年次とが、翌年度の当番幹事として総会行事を担当することとしました。)

以来、各学年幹事を含めた歴代すべての役職者の献身的な奉仕により、極めて順調に推移しながら今日に至っていると申せます。

総会を機に佐藤映之現会長にバトンタッチすることができました。この間多くの同窓に支えて頂き、心から感謝しております。限られた紙幅のため、多くを記述し得ませんので、創立以来の各年次総会の状況を別表「年次総会開催概況」にお示しする事にします。

我が関東同窓会が、母校と共に永遠に輝き続けることを祈念してやみません。

年次総会開催概況

回数	総会開催日	開催場所	出席者数
創立	1987/5/30(土)	日本生命日比谷ビル7Fホール	225人
2回	1988/5/28(土)	日本生命日比谷ビル7Fホール	158人
3回	1989/6/30(土)	品川プリンスホテル・クラウンルーム	164人
4回	1990/5/19(土)	高輪プリンスホテル・クラウンルーム	140人
5回	1991/6/22(土)	高輪プリンスホテル・パミール白雲	166人
6回	1992/6/20(土)	ホテル グランドパレス・松の間	180人
7回	1993/6/19(土)	ホテル グランドパレス・白樺の間	160人
8回	1994/6/25(土)	高輪プリンスホテル・パミール香雲	179人
9回	1995/7/8(土)	ホテル センチュリーハイアット・天平の間	198人
10回	1996/6/15(土)	京王プラザホテル・錦の間	178人
11回	1997/6/28(土)	ホテル センチュリーハイアット・天平の間	190人
12回	1998/7/11(土)	ホテル センチュリーハイアット・天平の間	158人
13回	1999/7/17(土)	ホテル センチュリーハイアット・天平の間	193人
14回	2000/7/1(土)	グランドヒル市谷・瑞雲の間	204人
15回	2001/7/14(土)	ホテル センチュリーハイアット・桃山の間	244人
16回	2002/7/20(土)	ホテル センチュリーハイアット・桃山の間	209人
17回	2003/6/21(土)	橋山荘オリオンの間	213人
18回	2004/6/12(土)	ホテル センチュリーハイアット・桃山の間	205人
19回	2005/6/18(土)	ホテル センチュリーハイアット・桃山の間	219人
20回	2006/7/8(土)	アルカディア市ヶ谷 3F・富士の間	-

春の幹事会

協議事項報告



幹事長

用正 靖彦
(S30卒)

春の定例幹事会が平成十八年三月十三日(月)、会長以下役員、学年幹事および当番学年幹事代表の三十三名の出席を得て、アルカディア市ヶ谷で開催された。

冒頭、佐藤会長より、「本年は関東同窓会が設立後二十年度の節目の年を迎えることになりました。そこで何かを取りあげて残したい。」

一つは、関東同窓会の設立以来その運営に「尽力を頂いた数名の方々に、感謝状と記念品を送り、その功績を称えたい。」

二つ目は、母校と関東同窓会の先輩、後輩との交流を進めたい。既に、昨年十一月に長吉前会長(二十六年卒業)が母校で講演を行っており、又フランス料理のシェフである堀田大氏(四十三年卒業)が母校で料理講習を行ったと聞いて、更に、本年二月に元海上専務長の古庄幸一氏(四十年卒業)が文化講演会を行っております。

今回は七月八日(土)に開催される総会、懇親会のアトラクションに、平成十七年度の「全国総合文化祭吹奏楽部門大分県代表選考会」で銀賞に輝いた母校の器楽部(ブラスバンド)の学生を招待し、その演奏を楽しんで頂くことにしたい。

以上二点を含めて本日の議題について、充分に審議を頂くと共に役員、学年幹事および当番学年幹事の皆さんには二十周年の記念すべき総会、懇親会が盛大に行われるよう格別のご尽力をお願いしたい」と挨拶された。

引き続き個別議事に移った。(一)感謝状贈呈について、設立二十周年の節目の年にあたり本年の総会で、これまで会の育成、発展にご尽力頂いた歴代の会長及びそれに準じる方数名に感謝状と記念品を贈呈する件は幹事会として異議なく承認された。

(二)総会、懇親会について、母校器楽部招待について、秋の定例幹事会からの継続審議となっておりました器楽部招待について、招待する人員や旅費、宿泊等の費用概算と予算等が熱心に討議され、二十名の学生と引率者を招待することが承認された。

(三)総会、懇親会の準備状況について、当番学年幹事より準備状況について報告。今回は会場とアトラクションは役員で決めて頂いたので当番幹事としては手持無沙汰の感がありますが、昨年十二月に当番学年幹事の第一回目の打合せを行い、会場や食事の見積も取得、着々と準備を進めており、二十周年記念の総会に大勢の方々が出席するよう最大限の努力を払うと力強い発言があった。

(四)事務局(名簿担当)よりのお願

平成十八年一月三十一日現在、登録会員数は二一〇名(内女性九一三名)ですが、その内三〇〇名が住所不明となっております。又最近、市町村の統合合併もあり住所表示が変更になっているケースが多くなっております。各学年幹事の皆さん、学年毎の一覧表を総会時に配布致しますので、修正の上、返却頂きたいと考えていますのでよろしくご協力をお願い致します。

平成十八年一月二十八日現在、維持会員数は三九九名(口数四四四口)で前年の一月三十一日現在に比して十七名(二一口)の減少となっております。維持

状況について

会費の納入状況は平成十八年一月三十一日現在、未納者数が一〇六名(一〇七口)で未納金額は九〇千円、前年(平成十七年一月三十一日)に比して九名、四万五千円悪化(増加)しています。維持会費が同窓会運営の根幹を成していることはご承知のことと存じます。会の安定的運営を維持し、更なる発展を目指すためには維持会員の増強が急務となって来ております。何卒事情ご賢察賜り、維持会員の加入を特に若い世代の方々にお願い致します。

平成十八年一月三十一日現在、登録会員数は二一〇名(内女性九一三名)ですが、その内三〇〇名が住所不明となっております。又最近、市町村の統合合併もあり住所表示が変更になっているケースが多くなっております。各学年幹事の皆さん、学年毎の一覧表を総会時に配布致しますので、修正の上、返却頂きたいと考えていますのでよろしくご協力をお願い致します。



竹高関東同窓会 春の定例幹事会
平成18年3月13日 於アルカディア市ヶ谷

各委員会報告

(1) 総務委員会から

総務委員長 緒方 義信
(S28年生)

維持会員拡大に
ご協力を

維持会員拡大につきましては、皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。お蔭で十七年度には新しく別途掲載の二十四名の方々に維持会員として加入していただきました。厚く御礼申し上げます。財務をあくから総務委員会としましては、皆様から御預かりした維持会費を、より大切に、より効果的に活用するよう努めてまいります。

ところで、財務の現状を申し上げますと、前年若干の赤字となっております。年度繰越金で補填している状況にあります。関東同窓会が永続するには少なくとも収支トントンにすべく、維持会員の拡大が欠かせないものとなっております。

つきましては、会員の皆様方に関東同窓会の維持発展のため、維持会員の拡大に、是非、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○維持会員になるには、会報に同封されている郵便券費用紙で一万五千元(何口でも可)の維持会費を納入していただきます。

だけでなく結構です。

なお、維持会員の皆様には本年度維持会費納入の時期となりました。納付方よろしくお願ひ申し上げます。

新しく維持会員となられた方
(二六年卒) 佐竹義久、(二八) 安藤洋一、飯尾長弓、(三〇) 安藤孝子、(三二) 甲斐賢生、(三三) 山村隆子、(三四) 佐藤幸一、古岡卓也、(三五) 伊藤洋子、(三六) 甲斐賢生、(三八) 洪野二郎、(三九) 田中裕生、吉田英明、(四〇) 笠川ミヤ子、(四一) 日野和人、別府郁美、(四二) 佐藤高昭、西川節子、(四三) 甲斐あつ子、(四七) 小津健治、(四八) 中野正子、(四九) 伊東聡子、辻正太郎、(五八) 白坂真男 (以上十四名)

(2) 企画委員会

企画委員長 桑島 輝茂
(S42年生)

関東同窓会も平成20周年の節目の年を迎える事になりました。近年当同窓会も当番幹事のさく熱心な働き、各委員の皆様への地道な努力や会員の皆様の故郷を思う気持ちが会場に花咲いているように思われます。

今年には、S40年卒、S50年卒の卒業生の当番幹事の二協力を頂き、好評のインフォーマーシヨーンコーナーを会場内に設置致しましたので、年齢や地域の垣根を取り払って頂き、クラブ活動や新しい故郷の発見や情報交換等に

20回記念大会の今年のメインイベントとして本校の現役プラズバンド(器楽)部の生徒さんによる素晴らしい演奏をお楽しみ頂きたいと考えております。活動報告よりもまずと昨年は県内のコンクールやコンテスト等で何度か賞状を受賞している実力と聞いております。

どのような演奏が飛び出してくるか今から楽しみです。

又今年には20回記念大会ということで250名の参加を考えておりますので、皆様それぞれに声を掛け合って沢山の方向のご出席を頂き大いに盛り上げて楽しんで頂きたいと考えております。

会場での様でいい人との出逢いは掛け替えのない宝物と考えます。

最後に学年幹事の皆様は大変ご苦労が多いと思いますが、より一層のご協力をお願い致します。

又平成19年度はS41、S51年卒の皆様のお力を借りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

(3) 組織委員会

組織委員長 後藤 猛士
(S41年生)

早いもので竹田高校関東同窓会が発足して20周年を迎えようとしておりますが、諸先輩方の多大な御支持、ご協力、ご支援のお陰様で県下の同窓会が出来る上り誇りに思います。

しかし、この20年の歳月の裏

では、発足当初の会員も20歳の年齢を積み重ねており、若い世代の会員を増やすことが今後の課題となっております。

特に昭和50年卒業以降の卒業の方々の名簿が不完全で連絡がとれない状態となっております。今後の同窓会の運営にも会員の拡大、若返りにも大きな課題となっております。

とは言っても、竹田高校の同窓会は、年に一度、懐かしい故郷の思い出をそして青春の一日を呼び戻せる大切なところです。

この大切な竹田高校関東同窓会を維持発展させて、若き後輩たちが集える同窓会という、関東で故郷を実感できる場所を守り続けていきたいと願っております。

50年卒以降の皆様への積極的な同窓会の出席をお願いいたします。そして、若い世代の方々に誘い合せてのご出席をお願い致します。

又、知人や親戚等の若い世代の卒業生の紹介を組織委員や名簿委員まで是非お願い致します。

(4) 広報委員会

広報委員長 平手 肇
(S25年生)

ホームページ担当からのお願い

竹田高校関東同窓会のホームページ開設以来、1年が経とうとしていす。

まだまだ、多くの方々が見られていないと言えませんが段々

と増加していると思われまます。担当の私一人で頑張っていますが、皆様方のご協力が無ければより良いものとする事が出来ません。そこで、お願いというものは以下の3点です。

①皆様方よりの新しい原稿(含写真)を投稿願います。

特に、各委員会の代表の方は、積極的に利用して下さい。

投稿は、直接書き込みのないメールにて、送付願います。

また、掲示板は皆様方が直接書き込みの不便(ご活用下さい)。

②ホームページに対するコメントをお願い致します。

より良いホームページのテザインや企画等、皆様方の忌障のないご意見をお願い致します。

担当者一人のアイデアには限界があります。

③ホームページ作成・改善等に對する技術的なご支援・援助をお願い致します。

一人合点のホームページから一人ページから脱却して、より面白く、読み易いホームページにしたいと考えますがなかなか思うように行きません。

ご支援・援助が可能な方は、メールにてご連絡願います。

以上、宜しくお願い致します。

ホームページのアドレスは以下の通りです。
<http://www.geocities.jp/kantohaketa/>
またメールアドレスは以下の通りです。
gagyutaketa@gmail.com

H17年・竹田会総会

田部 修士(64歳)

平成17年12月25日午後6時より、私学学生会・アルカディア市ヶ谷において今年度の竹田会が開催された。初めに元毎日新聞社副社長で26年竹田高校卒の馬弓良彦様がお話。今年亡くなられた物故者の方々への黙祷が捧げられた。

里見会長より、地元からの来賓への歓迎と台風14号による被災地(茨、宮城地区)へのお見舞いが述べられ、「合併新市への新たな展開に期待している。先週湯布院経由で竹田に参りましたが、竹田にいかにか文化財が多いかを再認識しました。春頃に竹田市に飛行場があることをニュースで知った。また岡城を採用了したJRの広告始め最近何かと竹田市のニュースを目にする機会が増えており、そうした記事に一喜一憂しています」と挨拶された。

来賓として、牧市長より、「新生竹田市が誕生し、歴史と文化の町に温泉と自然が繋がり一つになった。企業がないために人口減に歯止めがかからず苦しい状況にあります。市内の若き家情報発信、アイデア募集を積極的に行って活性化につなげ

ていきたい。市の財政も苦しい状況にあるが、市民の頑張りで竹葉が国交省大臣賞を受けた。」と挨拶があった。甲斐会頭より地元から東京の来賓の紹介がされ、「竹葉は灯明です。牧市長もお寺のご子息です。皆さん是非参りに参りして下さい」と挨拶があった。

続いて、特別ゲストとして今年退官された古庄前海峯市長より「日本を留守にして久しぶりに帰国してみると、ズボンの下がった学生、電車の中では目の前の女性が化粧をしている。荷物を棚に上げたまま熟睡している男性もいる。信じられない光景が目につく。竹田、諸方みんなに変わってしまったか」と思うことが多々ある。世の中大変な情報過多の中にあるが、捨てても良いものと捨ててはいけないものがあると思う。2年ほど前仕事でイタリアに招待されたことがあった。何と驚いたことに演奏の曲目が「荒城の月」で、実に心のこもった歓迎で大変感激した。最近はややインターネットが大変便利になってパソコンで竹田を検索すると水と荒城の月がすぐ出てくる。これなどは何があっても捨ててはいけないもの

の一つと察している。」
明治大学理事長 長吉先生のご発声で一同乾杯し、懇親会に入った。アルカディア私学会館での初めての竹田会となったが、2時間の予定が会場の手違いもあり、会は3時間に及び、後藤同窓会長、校長先生始めその他大勢の方々からも挨拶を頂き、大変な量の食事・飲物と懇談で会は大変盛り上がった。(大東運輪の都築会長とアルカディアの吉川副理事長が長年懸念がされておられ、今回一方ならぬサービスを頂戴しており、まずこの報告に付け加えます)

高、今年は天候不順で自然着の育ちが悪く二期待に添えない点があったことをお詫びします。

H17年度

関東同窓会

竹田会連絡会

田部 修士(64歳)

平成17年の竹田会に先立って午後3時より竹田市からの来賓を交えて、日本パーカライジング・会議室にて同窓会、竹田会の連絡会が開催された。初めに、里見会長より、竹田

からのご来賓への御礼が述べられ、続けて「本年合併新市として新しい竹田市が誕生しましたが、若い市長初め皆さんの活力で竹田市が発展することを祈念します。(ほとんど何も文化財の無い湯布院に年間320万人が訪れている。これに較べると合併竹田市はもつと有名になってよいと思う)」と挨拶があった。

続いて、竹田から東京の牧市長より、「碧雲寺の四男です。竹田市は大変苦しい財政状況にある。ご支援を賜うたいたく、今日は高島屋で「繁草の個展」が開かれています。スカーフは竹田で6千円で販売していますが、高島屋の個展では2万5千円で売られています。工夫によって収益の方法があるものだと改めて知らされた。」と挨拶があった。

以下、ご出席の役員のご発言を報告します。
後藤同窓会長「2年後は竹田高校の110周年に当たる。100周年の時の寄付が数百万円残っており、基金として活用して地域に開かれた記念事業を企画したい。」
*先輩による出前授業
*校友林を財源に当てる湯馬場施設
高、学校再編により合併竹田市の唯一の高校となるが、卒業

生以外も客員として迎え、地域を挙げて新制竹田高校を盛り上げていきたい。

首藤議員「直入町のぶどう園の所縁で昨年パトリックロランゲと筑城都市を結び国際交流を展開して。世界観光サミットで小泉首相が来賓されたが、市町合併を機会に温泉と歴史を結び付けて、地域の情報発信を上手にやっていたい。」
児玉議員「市議会は次の選挙で24名体制に移行する予定で、県下ではスムーズな合併が出来ている。」

甲斐会頭「森林環境税の還元で、里山保全の一環として岡城の周りを伐採、隠れていた石垣が出てきた。山城の面積としては最も広い。」
菅野光徳会長「竹葉の盛会に御礼を申し上げる。今年には12万人が訪れ、3日間での経済効果は1.4億円と推定。国土交通省の全国地域興しで、大臣賞を受けた。」

板井商店連合会会長「町の活力が今ひとつ不足、商店の協力が少ない。365日日常的な商業の立て直しを進めていく。より高齢者にやさしい街づくりを展開したい。来年は音楽祭が60年を理える。竹田を一つのミューディングポイントにしよう。」

燃える!!

クラス会・同期会

昭和33年卒三十三会 (ミトミカイ)全国大会

土屋 健児(‘33年卒)

4月10日、房総の鴨川グランドホテルに83名が参加して、第6回全国大会を開催しました。宴会にさきだつて恒例により集合写真撮影を行い、物故者へ黙祷をさされたあと、事務局の土谷の司会ではじまり、実行委



大分県竹田高校全国三十三会
平成18年4月10日 於鴨川グランドホテル

員長森河清さんより歓迎の言葉、続いて恩師、田北先生、都留先生の祝辞。事務局立川美知さんの委員の紹介に続いて、乾杯の音頭を鹿野島からの上田耕平さん、長崎の田上喜和子さんが行い、賑やかに宴が始まった。暫く歓談後、佐藤朝生さんの進行で、趣向を凝らした抽選会が皆さんを大いに沸かせ、その後、各地区代表により、地域自慢や活動報告があり、全員で校歌斉唱し最後に実行委員片山研さんの挨拶と一本締めで一次会はお開き。二次会は席を変えて、さらに運気を変え、語り飲み盛り上がった。なお今回は小旅行もかねており、初日浅草浅草寺、仲見世見学、アトライン金谷港から、フェリーで横須賀久里浜に渡り鎌倉の鶴岡八幡をお参りして、4年後古希のお祝い兼ねて、地元竹田で再会を誓い、羽田空港、品川駅にてしばしの別れとなりました。さらに、大分、竹

田の12名と関東4名が品川のホテルにもう一泊し、国会議事堂、東京タワーなど見学して、3日間が終わりました。

東京二八会総会

高山 茂美(‘26年卒)

二〇〇三年までは年二回開催してきた東京二八会総会を年一回の開催とし、二〇〇四年十一月に開いた後、二〇〇五年は暮の十二月九日(念)正午から千代田区丸の内一丁目の三菱ウツ「ボールスター」で開催した。階しい寒さが続いていたが、幸



東京2・8会総会
平成17年12月9日 於ボールスター

いにも当日は小春日和に恵まれた。当年の物故委員、藤本勝次、馬引良彦両氏の御冥福を祈った後、阿南雅正会長の挨拶、遠来の参加者、淡田高登氏(高野市の乾杯の幹、佐藤和範氏(尾張旭市)のスピーチに続いて各自短い近況報告をして貰った。会場が東京駅に近く便利なのに低廉な価格(六千円)で設備がたのは元三菱地所勤務の後藤光夫氏のお世話による。出席者は男性二十四名、女性七名計三十一名、二時間ばかり歓談の後、再会を約して別れた。

東京二八会例会

本間 吉久(‘28年卒)

各地からの寒波や雪害の報が少しかかり収まった頃、二月十八日、東京二八会の例会をホテルグランドヒル市ヶ谷で三十六名の参加で開催した。東京二八会は最後の覚悟した昭和二十八年三月に卒業、上京した仲間達、翌年第一回の同級会を開催。爾来、延々と五十回を積み重ねてきた。辛酸を嘗めた半世紀、いつの間にか爺、婆となつた。例会はいつものことながら和やかであり車座がいくつも出来、時間の経つのを忘れさせていた。幹事の特権で所定の設問(初音の思い出、忘れられない大抵、今、熱中していること)

等々をくじ引きで強制的に発表させ発語が飛び出し爆笑が湧きまいた。二八会は東京、近畿、福岡、北九州、別大、竹田と六ブロックに事務局を置き連携を密に情報交換を行つていく。隔年で全国大会を実施、一昨年は古希記念大会を久住高原荘で百八十名もの記録的な参加があり箱沼はホテルの附帯設備を有利用する程の盛況であった。今年の秋は、みなとみらい21で東京大会を準備中である。既に年初のアンケートで百六十名の参加希望を受けている。強い絆で結ばれた旧友、仲間達が地区会であれ全国大会であれ互いに健在を確認できる機会をもてることは実にすばらしい。益々、意気軒昂で竹田高校の校歌を歌い続けたい。



東京2・8会例会
平成18年2月18日 於ホテルグランドヒル市ヶ谷

ふるさと名所紀行 ～「ラムネ温泉美術館」オープン～

＝竹田市直入町長湯温泉＝

佐藤 毅士 (S28年卒)



ラムネ温泉美術館

この長湯温泉を更に発展させる文化施設として「ラムネ温泉美術館」が昨年秋にオープンし話題を集めている。これを創設したのは、現在、興業会議員で、「大丸旅館」社長の首藤勝次氏で、ドイツ温泉地との交流や「御直湯」初代館長など、その功績が認められ、国

竹田市直入町の長湯温泉は、「日本百名湯」(松田忠徳温泉教員編集)に選ばれ、又、大分高校卒業の直木眞作家、赤瀬川準氏や全国的に著名な紀行写真家、南正時氏が日本一の炭酸泉と折紙を付けている。



川端康成自筆

川端康成「千羽鶴」と私

ノーベル賞作家、川端康成氏の警感に接した人も、時代の推移とともに、だんだん少なくなってきており、この度遠縁に当たる長湯大丸旅館の首藤勝次社長からの要請もあったので、竹田高校時代にその幸運に恵まれた一人として、当時の状況を記しておきたいと思う。

川端康成全集の年譜、梅本秀徳FM大分社長の著書「九重山博物誌」などによって、大分久住町、竹田市への行程を調べると次のようになっている。

昭和二十七年十月二十日、瀬口内航路で別府に入り、中津、耶馬渓を経て、二十三日に玖珠で昼食の後、九酔渓を通じて飯田高原に登り、筋湯の四角屋に泊まる。二十四日は快晴、釜の口温泉で嶋田裕雄氏の経営する小野屋で休んだ後、長者原から諏訪守越を越えて坊がつる、法華院温泉に入る。二十五日は付近の散策、二十六日に久住町に下り安井旅館に入った。そして二十八日には、別府での座談会に出席しているが、十月二十七日の記述が空白で、私の想像では、おそらくこの日に竹田高校を離れたものと思われる。

先導役は、久住町出身で、竹田高校国語担当の後藤是美先生であった。私はこの時、高校二年に在学中で、全校生徒が講堂で、川端康成氏のお話を聞いた。氏は喋るのが苦手で、講演や、対談は極力避けてきたとのことであったが、この時は大久保静平校長と後藤是美先生の熱心な要望を断りきれずに演壇に立つことになった。弁舌さわやかではなかったが、鋭い眼光と落ち着いた低い声で、日本の古典、仏教、茶道などの伝統文化について深い見識で話題とし、若い人は「日新たにして新たなものを得ましょう」という訓話であった。後年私は大学で、日本茶道史を専攻することになるが、川端氏の講演や、著書からの示唆が大きかったことをあらためて感じている。

この時、川端康成氏は五十四歳、「千羽鶴」が世間での評価が高く最も脂のりきったところであった。「千羽鶴」の続編を書きたいとの意欲が強くあり、温泉の好きな川端氏は大分県内の至る所に、いろいろな種類の温泉があることが興味をそそったのである。

この取材旅行を終えて、「千羽鶴の続編波千鳥」が次々に発表されたが、先に記した旅行スケジュールのように、大分各所の地名が随所に表現されている。特に久住、竹田についての風景描写は、抒情豊かな文章として読者を惹きつけている。

平成二年、私は札幌テレビ放送から縁あって郷里のFM大分に移った。大分本社での余社会議の後の懇話会で、梅本社長に連れて行かれた都町の酒房「重箱」で、「千羽鶴」に四十五年ぶりに出会ったのである。館酒「千羽鶴」は久住町の佐藤酒造の佐藤俊明氏が川端康成氏から許されて命名したもので、県内でも評判の高い日本酒である。この夜はキリッとした辛口のお酒と美味しい郷土料理で、すごくいい気分になり、青雲の志をいだいていた少年時代の思い出に耽ることが出来たのである。

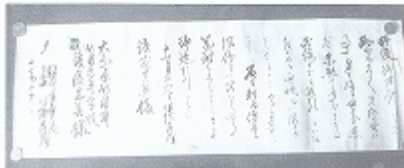
佐藤毅士 (S28年卒)

士交通省の「観光カリスマ」にも認定されている。首藤社長は、ラムネ温泉による身体保護と同時に心の癒しも大切だと考え、温泉に美



高田力範画「九重連山」

宿館を併設したのである。この建物を設計したのは、今年九月の第十四ベネチア・ビエンナーレ建築展の「日本館」コミッションナーに就任した東大教授藤森昭昭氏で、焼板と漆喰、頂上には日本の祝の象徴、松の木がそびえ、藤森建築の特徴を表現している。常設展では、竹田市と関係が深い川端康成の作品と高田力範の「九重連山」の絵画等が展示されている。左記のコラムは、写真パネルで、川端康成と竹田市の関係を説明したものである。



後藤是美先生宛 川端康成書状

広報「臥牛」発行 を振り返って

副会長(広報担当)
神田 清 (S26年卒)



●竹高関東同窓会が発足二十周年を迎えるこの機会に広報誌「臥牛」発行の経緯につき振り返って見たいと思います。関東同窓会が発足した三年後本会も組織的な会運営が望まれ、平成元年十一月一日第二代会長藤石会長のもとに広報委員会が設置され足立五郎広報委員長が就任し会報名の募集がおこなわれ現在の広報誌「臥牛」として発行されることに決まり、第一号が平成元年十二月二十五日付発行されました。そして現在第三十号(平成十七年十一月)まで刊行済みです。

- 歴代広報委員長(発行元)
 - ①足立五郎 委員長
 - 第一号・第二号
 - ②神田 清 委員長
 - 第十一号・第二十五号
 - ③佐藤敏士 委員長
 - 第二十六号(現在に至る)
- 広報誌「臥牛」発行の主な目的と役割

- ① 活動状況の伝達
- ② 活動記録の保存
- 会員相互の親睦と情報の交換・伝達を目的として発行されました。

- 編集方針と内容
- ・総会開催報告・会務会計報告・委員活動報告
- ・会員特別寄稿
- 「同窓で活躍するの政・財界・学会の豊富な多才な人材のご紹介」
- ・ふるさと名所紀行・会員へのお知らせ 等々

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

- 山田 謙雄
平成17年4月20日 没
- 黒野 凌三様 (S31年卒)
平成17年6月31日 没
- 野部 武夫様 (S20年卒)
平成17年9月26日 没
- 得丸 大典様 (S20年卒)
平成18年1月9日 没
- 平田 豊年様 (S30年卒)
平成18年2月4日 没

奈何とかの方法により、事務局へ連絡を頂いた方々を掲載しております。

●ホームページを平成十七年四月一日付立ち上げました
平手肇広報副委員長を中心に企画し、積極的なご活用を期待しています。

発足二十周年を迎え新たな目的意識のもと内容の充実を図り期待される広報誌として全員が力を結集し編纂に努める所存です。
今後其間に倍してのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

会員の皆様へお知らせ!!

第20回記念、 関東同窓会 のご案内



大分県立竹田高等学校
器楽部の皆さん

第20回関東同窓会は歴記の通り、今年7月8日(土)アールカティア市ヶ谷、3F富士の間で開催します。故里竹田の本校器楽部(ブラスバンド)の現役生徒さんに上京頂き、生演奏をお楽しみ頂きます。

- 昨年度、コンテスト、コンクール等の成績一例
- ★1/9 全国総合文化祭吹奏楽部大分代表選考会 銀賞
- ★7/31 大分県吹奏楽コンクール 銀賞
- ★12/25 大分県アンサンブルコンテスト大分大会予選 銀賞
- ★12/27 全国総合文化祭吹奏楽部門大分県代表選考会 銀賞

詩歌・文芸

幸 槐安齋 (S36年卒)

八十神の同幡風土記や卯波立つ
源平や椎葉の里の波まで
雑談の雑見行列や畦を焼く

溝口田鶴代 (S36年卒)

私の座五百羅漢に父の顔
香母酔湯やともしび淡く山の里
はんにちは母と足し算春の雪

あとがき

※「投稿をお待ちしています」
若い世代の皆様への「クラス会情報」や「特別寄稿」等々、ご投稿を特に期待しております。
委員一同

- 投稿内容
 - ①クラス会情報
 - ②故郷の便り
 - ③海外便り
 - ④会員の語らい
 - ⑤その他
- 連絡先
 - T 302-0034
 - 茨城県取手市戸頭七丁目
 - 七二二-1102
 - 佐藤 毅士 宛
 - (広報委員長)
 - T E L 02997-78177
 - F A X 02997-78177